

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <教務>

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。</p> <p>(1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。</p> <p>(2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。</p> <p>(3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。</p>	
2 評価する領域・分野	◇教務	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果においては、例年と同様の傾向が見られる。 ・8割5分を超える生徒が「本校に入学できてよかった」と回答しており、8割を超える保護者が「お子様は喜んで学校に行っている」と回答している。 ・生徒対象の問い「ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等の学習支援」および「一人一人の能力に応じた指導」の評価において、プラス評価がマイナス評価より5%ほど低くなっている。保護者においても、同様の傾向が見られる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全年次単位制の初年度として、個々の生徒が興味、関心をもって主体的に学習に取り組むことができる環境を整える。 ・全生徒にタブレットが貸与され、本格的に利用可能となったことから、ICTの更なる運用を充実させる。 ・ICTを活用し、保護者と教職員との連絡に活用し、双方の負担軽減を図る。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会 ・LHR・総合的な探究の時間委員会 ・教務部会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 教育課程委員会および各教科会を定期的開催し、研究と協議を行う。</p> <p>(2) ICT活用に関して、優先課題を設定し、研修会を行う。</p> <p>(3) 学校設定科目をはじめ、本校の特色ある学びの充実を図る。</p>	<p>(1) 生徒にとって魅力ある教育課程の編成となっているか。様々な進路希望の実現に向けて、より有益な科目の選択が可能となっているか。</p> <p>(2) タブレットやプロジェクター等のICT機器の利用により、理解しやすい授業を実践し、学びを深めることができているか。</p> <p>(3) 一人一人の興味、関心を深めて、学ぶ意欲を高め、知識および技能を習得させることができているか。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度教育課程の編成を踏まえて、教育課程委員会や各教科会において、各科目をいかに充実させるかについて協議することができた。 ・タブレット講習会やデジタル採点システム講習会などを活用し、教員のICTリテラシーを高めることができた。 ・学校設定科目のみならず、他の多くの科目において、「探究」を中心とした活動を行うことができた。 	<p>①単位制として特色ある教育課程を実践できたか。</p> <p>②ICT機器等を活用した授業改善を実施できたか。</p> <p>③各科目において「探究」する姿勢を養うことができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○本校の特色である「探究」を意識した授業の展開を行う上で、今年度は当初から全年次の生徒にタブレットが貸与され、より深く学ぶ機会を得ることができた。</p> <p>○タブレット活用のために、MetaMojiやmanabaをどう活用するかについて、研究会の場だけでなく、普段から教職員間で情報共有に努めることができ、技能を伸ばすことができた。</p> <p>○Microsoft Formsを用いて欠席連絡を行うことで、保護者、教職員の負担を減らすと共に、確実な内容を伝達することが可能になった。</p> <p>▲全年次単位制の初年度ということで、2年次および3年次の選択科目授業が多く実施される状況により、生徒にとっては教室を移動しなければならない機会が多く、教務部の業務（定期考査の時間割編成、座席の指定等）においても、</p>	
		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>

	万全な体制で臨むことができなかった。一連の業務を精査し、潤滑な業務運営の流れを築く必要がある。
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の1年生より新学習指導要領に基づく教育課程となることに伴い、観点別学習状況評価を行う。これまでに培ってきた本校の生徒育成力を礎に、更なる改善に取り組まなければならない。具体的には、コロナ禍により乱れがちな学習習慣の定着を第一課題としなければならない。その上で、基礎学力を伸ばし、思考力、判断力、表現力を高め、主体的に学ぶ姿勢を養うことを目指す。そのための手段として、より明確なシラバスの提示と実践を行わなければならない。各教科会で協議するだけでなく、学校全体として統一した取り組みとして進める必要がある。 教務部に関する業務の改善が求められている。具体的には、選択科目の授業が多くなったことから、生徒も教員も授業の度に移動しなければならない機会が大幅に増加した。授業に遅れたり、ホームルーム教室に忘れ物を取りに行く生徒を目にすることがあり、授業の質の低下に繋がりがねない状況である。生徒の意識を高め、すべての授業が落ち着いた雰囲気で行われるように、日々の予定を明確に把握できるようにしなければならない。タブレットを活用した生徒への連絡方法などを確立する必要がある。また、定期考査においても、時間割作成、座席表の掲示など、単位制になったことで、複雑なものになっている。生徒一人一人の個人考査時間割の作成などでは年次会の協力も得て、実施することができているが、業務の流れをシステムとして構築する必要がある。 デジタル採点システムも導入され、答案用紙をスキャンしてパソコン画面上で採点が行えるようになった。これにより各教職員が扱うデジタル個人情報の量が増えた。これまで以上に、厳格に個人情報を取り扱わなければならない。デジタル情報の業務の流れを明確にし、個人情報の管理徹底が必要である。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

【意見・要望・評価等】	
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍という厳しい状況ではあるが、様々な体験が人を育てることになるので、これからも生徒が成長できる多くの場を提供していただきたい。 単位制による科目選択が生徒本人の興味関心に基づくものであることは良いことであるが、その一方、興味関心を持たない分野について学ぶ機会を失ってしまう傾向がある。社会人としての一般教養を養っていくためには、必要な知識や情報に触れさせることも肝要である。 生徒の主体性を今後も大切にして、2年次3年次合同授業にあるように、必要な時期に必要な内容が学べる環境を今後も大切にして、個々の生徒の成長を促していただきたい。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <進路指導>

I 自己評価

1	学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。
2	評価する領域・分野	◇進路指導
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「適した進路情報の提供」では、生徒74.4%が肯定的評価であった。「希望に沿った進路指導」でも78.9%が肯定的評価であった。今後も生徒一人一人に沿った進路支援を丁寧に行っていきたい。 「進路情報の提供」「生徒個々の進路希望に沿ったアドバイス」に対する保護者の評価は、それぞれ68%、62.6%で、コロナ対策の影響による支障もあったが、昨年比やや増加し、概ね満足されている。引き続き、適切な進路指導や質の高い指導を研究・推進していく。 総合的な探究の時間を活用したキャリア教育の充実と推進に努める。
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を段階的に進め、社会で自己を生きるために主体的に努力できる人材を育てる。 卒業時に進路目標が実現できるよう学力の定着と伸長を目指す。
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究委員会 ・教育課程委員会 ・進路指導部会 3年次会 ・研究推進部会
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標

(1) キャリア教育の計画及び実践（総合的な探究の時間を中心に展開） (2) 学力の定着（夏季補習、外部模試） (3) 進路情報の提供（各種ガイダンス・資料室整備） (4) 進路相談の充実と支援体制の強化	(1) 生徒一人一人の将来を見据えた進路指導の充実と生徒の満足度の向上 (2) 学力の向上と進路目標の実現 (3) 時期や内容を考慮した各種ガイダンスの実施 (4) 進路指導に対する肯定的評価の向上	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 1年次は、単位制の趣旨を踏まえ、職業及びフィールド選択研究、2年次は学部学科等の研究、3年次は入試対策など進路目標の実現のための方策を中心に実施する。 ② 補習、外部模試等を利用した学力向上に努める。 ③ 各種ガイダンスを充実させて、進路学習に資する。 ④ 年次会との連携を密にし、生徒情報の共有と外部情報の適切な提供に努める。	① 進路学習が有効に行われ、進路目標が実現できたか。 ② 学力の向上に役立ったか。 ③ 進路選択に資することができたか。 ④ 適切に進路指導を行うことができたか。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○ 3年次の総合型・学校推薦型選抜の受験希望者の増加により、面接・小論文・志望理由書作成等、より実態に即した丁寧な進学指導に力を入れた。 ○ 1年次の進路別ガイダンス、2年次の大学模擬授業、各種進路講演会・ガイダンスなどコロナ感染症の影響により対面で行えず残念であったが、ICTを利用してオンラインで行うなど、できる形で工夫して実施することができた。 ○ 3年次会との連携を密に行い、詳細な打ち合わせを重ねることによって複雑な入試制度に対応することができた。 ▲ 「大学入学共通テスト」など今後の大学入試改革について、正確な情報を収集し、職員や生徒に伝え、より工夫して指導に生かしていく必要がある。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・ 大学入試改革の動向を踏まえ、入試制度の周知徹底や面接・小論文対策等の指導力強化を図る。 ・ 進路希望調査や入試統計のICT化、生徒の進路指導へのICT導入について研究していく。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

【意見・要望・評価等】

・ 進路行事でオンラインやICTを利用する試みは、新たな可能性が広がりよかった。特に国公立大学ガイダンスでは、遠方の卒業生の話が聞けて生徒には幅広い進路選択に目を向ける良いきっかけとなった。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <生徒指導・教育相談>

I 自己評価

1 学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切に作る心、人への思いやりの心を育成する。
2 評価する領域・分野	◇生徒指導
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ マナー指導については、生徒・保護者とも肯定的評価が多い。 ・ いじめや差別に対する指導については、生徒の74.3%が肯定的な評価である一方、わずかではあるが1.2%が否定的な評価があることを重くとらえ、生徒全体にいじめや差別についての指導を徹底していきたい。また、保護者に向けても保護者懇談やHPなどで本校の取り組みについて紹介し、理解を得たい。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・ 朝の登校指導（挨拶・交通安全）の継続的实施（MSリーダーズによる活動） ・ 問題を抱えている生徒への支援 ・ いじめの未然防止と適切な早期対応および心のケア ・ 多様化する生徒への支援（服装など）
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・ クラス担任・学年会・生徒指導・教育相談の緊密な連携 ・ 管理職への迅速な報告
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標

(1) 朝の校門・昇降口での挨拶・交通安全指導 (含MSリーダーズ)	(1) 昨年度までの統計との比較 〔問題行動・遅刻・交通事故の減少率〕 20%以上：A 0%以上：B -10%以上：C -10%未満：D	
(2) 教育相談・学年会・保健室・HR担任との 緊密な連携と支援計画づくり	(2) 教育相談アンケートの実施 〔教育相談アンケート実施回数〕 8回以上：A 5回以上：B 3回以上：C 3回未満：D	
(3) いじめ未然防止に向けての取り組み	(3) 全校体制によるいじめ未然防止 〔いじめ対策や人権についての生徒・保護者の指標〕 60%以上：A 50%以上：B 40%以上：C 30%未満：D	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 情報モラル・マナー指導	① 問題行動が減少したか。	(A) B C D
② 交通安全委員会による交通安全活動	② 交通事故件数が減少したか。	A (B) C D
③ 生活委員会による挨拶運動	③ 1日当たりの平均遅刻人数 は減少したか。	A (B) C D
④ いじめ案件経緯メモの活用およびいじめ防止 啓発LHRの実施	④ いじめ問題や人権に対する 指導は効果的であったか。	(A) B C D
⑤ 教育相談アンケートの実施	⑤ 教育相談アンケートで生徒 の声を把握できたか。	(A) B C D
11 成果・課題	○交通事故件数は昨年度とほぼ同じであった。登校指導やメールなどでの注意喚起をこまめに実施したが、なかなか減少しない。 ○いじめ事案は大きく減少した。心のアンケートや担任の先生方の懇談などで気づいた情報を早めに共有し、人間関係トラブルとして対処することができた。 ○業務削減として、自転車やロッカーの鍵の不具合については公務員さんが引き受けてくださったので、問い合わせはなくなった。 ▲遅刻については、昨年度同様、11月以降3年次生の遅刻が急増した。また、悪天候での交通渋滞など、天候によって遅刻が多い日があった。事故にもつながる危険があるため、今後も注意喚起していきたい。 ▲行事ごとの交通整理については、なかなか減らすことはできないのが現状である。保護者に公共交通機関の利用をお願いしているが、むずかしい。今後、送迎の交通整理でトラブルが起こらないことを願う。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・今年度から始動した制服改定へ向けて、生徒会と連携しながら進めていき、生徒がより過ごしやすい学校を目指す。 ・MSリーダーズの活動をより活発にしたい。決められた活動をこなすだけでなく、生徒自身が考えた活動を組み込みたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

【意見・要望・評価等】
・制服改定については、詰襟タイプがなくなるのは寂しいが、そういう時代であり仕方ない。LGBTQ対応を考えながら本校らしいものを生徒会と協力して進めていく。
・18歳成人による学校での対応は変わっていくのか。基本的な対応は現状維持で、保護者と連携していく。ただし、個人契約などの消費者教育を充実させていく必要がある。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <特別活動>

I 自己評価

1 学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切に作る心、人への思いやりの心を育成する。
2 評価する領域・分野	◇特別活動
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「授業以外の学習機会や学校行事の有無、又はその実施方法等について、生徒の安全を最優先とし、コロナウイルス感染症対策を講じて適切に計画している。」に対して生徒(80.6%)、保護者(83.2%)がよい

	評価をしている。制約が多い状況下で生徒や教員が努力していると評価された。 ・本校の部活動に対しては、生徒（74.8%）、保護者（74.1%）とよい評価を受けている。 ・本校のボランティア活動については、生徒（49.4%）、保護者（41.0%）であった。コロナ禍において、郊外での活動や、人との関りが制限されるなか、ボランティア活動が行なえなかった影響である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・コロナ感染を防ぎながら、部活動と学校行事の一層の活性化を図ることにより、生徒の目的意識を高めると共に、主体的に取り組む姿勢を育成する。 ・ボランティア活動などを通じて地域連携を深め、社会の一員としての自覚を深める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒会執行部、各種委員会、部顧問会議	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)学校行事の企画内容の見直しと生徒会における役割の明確化。 (2)生徒が主体的に取り組む部活動運営。 (3)ボランティア活動に対する意識の向上とボランティア活動への積極的な参加。	(1)学校行事に対する生徒と保護者、教員及び地域・学校関係者による満足度。 (2)部活動に対する生徒と保護者、教員及び地域・学校関係者による満足度。 (3)ボランティア活動に対する生徒と保護者、教員及び地域・学校関係者による満足度。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①感染防止に配慮した学校行事の企画。 ②部活動の数や活動内容の精選。 ③新しいボランティア活動の方法を試行する。	①生徒が自ら考え、よりよい方法を考えることができたか。 ②部活動に対する取り組みが積極的になったか。 ③生徒が積極的に参加・協力できたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○新しい形で体育行事を企画できた。 ○生徒会が多くアイデアに基づいて全校企画を行うことができた。 ▲感染拡大のために企画したものの中止に至った行事が多数あった。 ▲地域と関わる活動をほとんど提供できなかった。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・部活動の安全な実施方法を研究する。 ・生徒活動と地域探究活動をリンクさせる方法を研究する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

・今年度も、コロナ禍での活動となった。高校生活で大きな行事となる北翔祭は中止となった。その中で12月には、生徒会が中心となり「クリスマス会」を企画、運営を行うことができたことは、学校全体が少しではあるが明るい雰囲気となった。
・地域に出て活動する形はたくさんある。地域と学校の協力体制を一層進めていきたい。また、評価など生徒の動機づけにつながるようなものを出すといよい。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <保健厚生>

I 自己評価

1 学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切に心、人への思いやりの心を育成する。
2 評価する領域・分野	◇保健厚生
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果	・「生徒への安全や衛生面への配慮」に対し（81.1%）の比較的高い評価を得ている。

果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者（地域）に対策マニュアルが知らされている。」の項目では、（91.4%）の非常に高い評価を得ている。 ・校内の清掃については、一昨年度、否定的評価が全項目中、最も高かったが昨年、今年と改善傾向がみられる。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全で活力ある基本的習慣の確立。 ・学習環境の美化・整備を通じて、環境への視点の育成。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全委員会（アレルギー対策委員会）・防災委員会 ・保健委員会・環境委員会・美化委員会 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 健康診断後の事後指導 (2) 安全点検・校内美化活動の推進 (3) 命を守る訓練、津波防災の日、非常変災時における帰宅確認予行 (4) 新型コロナウイルス感染症予防対策	(1) 医療機関への受診率 (2) 施設設備の充実度・ごみ処理量の減少 (3) 地震や台風時の対応評価 (4) 感染者の発生状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①各種健康診断後の要受診者に対する医療機関受診への呼びかけ。 ②定期的な安全点検の実施。美化委員会を中心とした校内美化活動の実施。環境委員会によるゴミの減量化、分別回収、リサイクルの推進。 ③命を守る訓練・津波防災の日の実施。非常変災時における帰宅確認予行の実施。 ④県から示される新型コロナウイルス感染症予防対策のガイドラインに則した取り組みを学校全体で実施。	①各医療機関での受診率 ②安全面や衛生面への配慮ができたか。 ③命を守る訓練はコロナ禍で訓練内容を変更して行った。 ④学校全体で徹底できたか。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D	
11 成果・課題	○定期的な安全点検による安全性の確保。また、非常変災時における対応が周知された。 ○校内での新型コロナウイルス感染症予防対策を、県のガイドライン通り行えた。 ▲新型コロナウイルス感染症拡大のため各種の健康診断が延期され、それに伴い要受診者に対する指導が遅れた。 ▲コロナ禍のため訓練などが予定通りに実施できなかった。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の要受診者の保護者への周知徹底の仕方を考える。 ・訓練の実施方法や非常変災時における対応の見直しを図る。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

【意見・要望・評価等】 今後新型コロナウイルス感染症予防対策を周知し、学校全体で取り組む必要がある。また、美化委員会を中心とした校内美化への取り組みを強化したい。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <渉外広報>

I 自己評価

1 学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。
2 評価する領域・分野	◇渉外広報
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA大学見学会：日程や訪問する大学などに関していろいろな要望がある。 ・PTA研修会：入試や就職など生徒の実態にあった話をしてほしいという意見が多くあった。

	・ P T A総会：多くの保護者に出席してもらえよう工夫をしてほしいとの声がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「P T Aだより」「学校案内」の紙面の改善・充実をはかる。 ・国際理解に関する教育を推進する。 ・ P T A各種行事の内容の充実を図るとともに、参加率を高める。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・企画運営委員会、P T A運営委員会、学年会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1)「P T Aだより」「学校案内」の内容の検討・充実を図る。 (2)「国際理解プログラム」をより充実したものにする。 (3)各種行事の参加者を増やすために、保護者の意見を反映させ行事の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)「P T Aだより」「学校案内」の紙面の充実 (2)「国際プログラム」の内容の検討と充実 (3)(4)「P T A総会」「大学見学会」「研修会」の内容の充実と参加率の増加 <p>総会参加率 [25%以上A 20%以上B 15%以上C 15%未満D] 大学見学参加率[10%以上A 8%以上B 4%以上C 4%未満D]</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ①「P T Aだより」「学校案内」の内容検討、内容の充実、デザインの改善。 ②「国際理解プログラム」の内容をしっかりと検討して、充実したものにする。 ③P T A各種行事への保護者の参加率をできるだけ高めるため、保護者が関心をもっているような講演や内容を企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「P T A便り」「学校案内」は、前年より紙面が充実したか。 ②国際理解プログラムは、生徒にとって充実したものであったか。 ③P T A各種行事への参加率が目標値に達したか。また内容的に満足のいくものであったか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
11 成果・課題	<p>今年度はほとんどのP T A行事が、コロナ感染予防のため実施できなかった。そんな中、外国人講師を招いての「国際理解」の講演会をリモートで開催したり、P T A研修会において、外部講師による「進路講演会」を録画し一定期間配信できたことは、保護者にとって有意義であった。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<p>P T A行事に関しては、参加する保護者からの意見を取り入れ、多くの保護者に参加していただけるものにしていきたい。また、行事の案内を工夫して保護者の参加を促したい。今後も、P T A行事に多くの保護者が積極的にかかわっていただけるようにしていきたい。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

【意見・要望・評価等】留学など豊かな人種社会での経験が積極性を身に着ける原動力になるとの提言をいただいた。今後も様々な海外の方の講演を聴ける機会を設けていきたい。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <図書視聴覚>

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2)自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3)「命」を大切に作る心、人への思いやりの心を育成する。
2 評価する領域・分野	◇図書視聴覚
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館の利用しやすさ」について、肯定的評価をした生徒が70.9%であり、昨年度より9ポイント増加した。 ・保護者については図書に該当するアンケート項目はないが、「学校の施設・設備の満足度」において、68.3%の肯定的評価を得ている

	ことから図書館の施設・活動に関しても好意的な評価をいただいていると推測できる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教科・HRとの連携を図り、図書館利用を促す。 ・図書館環境の整備・充実に努め、読書に対する興味関心を高める。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・図書視聴覚委員会（年3回） ・生徒会図書委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 図書館利用促進のための広報活動。 (2) 図書館における授業・LHR活動の準備。	(1) 図書の貸出冊数や来館者数を昨年度と比較。 (2) 授業・LHRでの利用回数を昨年度と比較。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①校内読書感想文・小論文コンクールの実施。話題になっている本の紹介。その他、図書に足を運んでもらえるための働きかけ（校内掲示・紹介など）。	①図書貸出冊数と生徒の利用状況。	A (B) C D
②図書委員によるイベント企画と運営。館内の環境整備。	②イベントの参加・利用状況。	(A) B C D
③調べ学習における書籍の準備・収集。	③授業における図書利用回数。	A (B) C D
11 成果・課題	総合評価	
○実施することができなかった北翔祭の企画・それ以外で実施したイベントの企画運営に関して、委員内で積極的な意見交換が行われ生徒主体での企画・実施をすることができた。 ○授業での調べ学習や昼休みや放課後の図書館利用において、コロナ対策を講じながら利用しやすい資料の準備・館内整備などを行うことができた。 ▲ICTを利用した情報発信の一環として、年度途中より図書館だよりを生徒のタブレット端末に配布しているが、生徒への認知度は低いように感じる。より良い方法を今後検討していく必要がある。	A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が図書館活動に興味・関心を持つ企画ができるよう、情報発信の方法を考えていきたい。委員会におけるICTの利用やイベントの企画など、生徒主体の行事を共に考えていく。 ・単位制やカリキュラム変更に伴い、今後も授業での図書資料などの利用が増加すると考えられる。生徒のタブレット端末を利用した蔵書検索などの手段を検討し、情報提供の方法を考えていきたい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

【意見・要望・評価等】 ・特記事項なし

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 <研究推進>

I 自己評価

1 学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にすする心、人への思いやりの心を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇研究推進	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「地域と連携した教育活動を行っている」に関して、肯定的な意見が生徒・保護者ともに6割近くであった。感染症対策を講じながら、地域と連携した教育活動を発展させていく必要があると感じる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド選択・科目選択の指導 ・地域課題探究型学習の企画・運営 ・本校の魅力の発信 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会 ・LHR・総合的な学習委員会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	

(1) フィールド選択や科目選択の指導の確立 (2) 地域課題探究型学習の指導計画作成 (3) 学校説明会における本校の魅力の発信	(1) 科目選択の手引き (2) 授業の指導案作成 (3) 中学生の進路希望状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 1、2年次生の科目選択指導を全職員で行い、科目登録を行った。	① 本校の教育目標に沿ったものか。	Ⓐ B C D
② ベース時間割のさらなる改善を行い、それぞれの生徒の進路希望により適した科目選択ができるようになった。	② わかりやすいものであるか。	Ⓐ B C D
③ 中学生対象に、単位制の説明を行った。	③ 本校を希望する生徒が増えているか。	A Ⓑ C D
11 成果・課題	○ 1年次生に対して、全職員の協力体制のもと、フィールド選択・科目選択指導を丁寧に行い、本登録までを行うことができた。 ○ 中学3年生対象の進路希望調査(1月)によると、本校を希望する生徒は、学年制最後の3年前と比べ、1.4倍であり、一定の成果を上げていると考えられる(ただし、今年度は説明会自体は少なかった)。 ▲ 科目選択の指導方法は、これまでの経験を生かしてさらに改善したい。また、3年次まで単位制がそろそろ来年度のシミュレーションを進める必要がある。 ▲ 探究活動は、感染症拡大予防のため、今年度も当初の計画を休止、変更せざるを得なかった。この状況下で実施できる方法に代替し、地域の方の協力を得ながら進めていきたい。 ▲ 自己管理のための「マイ手帳」は、前年度ほどには活用を推進できなかった。	総合評価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・新カリでの選択科目に関して、開講科目やベース時間割の検討を進めていきたい。 ・マイ時間割作成の支援については、無駄な手続きを省きICTを活用して省力化するなど、さらに改善を進めていく。 ・「探究活動」については、地域との連携を深め、対面しない形での実施を模索していく必要がある。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月7日

<p>・探究学習の「住み続けたいまちづくり」は、まさに地域に密接にかかわる課題である。本格的なポスターなどをつくり、地域の人に見てもらうのはどうか。学校の活動があまり知られていないので、せっかくならもっとアピールするとよい。</p> <p>・タブレットを使いこなしている様子を参観して時代を感じた。KJ法など社会で役立つスキルを身につけることも有意義である。このまま、主体的に取り組む態度を育ててほしい。</p>
--